

建築文化奨励賞

環境に配慮した建築物

建築主：宇津木幸夫

設計：有限会社稗田綜合建築設計事務所

施工：丸西建材有限公司

所在地：山武郡成東町

地域に根ざす木の家

宇津木邸



居間、建築、家具からストーブの燃料へ、木を使い切る。

地域の森林から伐採される木材を地場で建築材料に加工し、その地域に建てる木造住宅に活用する。この家づくりにおけるいわゆる「地産地消」の試みは全国各地に広がっている。時代の趨勢であるグローバルあるいはナショナルな流通に依存する産業構造に一石を投じ、林業の川上から材木流通の川下に至る地場産業を活性化するとともに、流通過程にかかる不必要なエネルギー消費の削減で、二酸化炭素の固定化に少しでも寄与することなどがその主眼である。

この住宅はいわゆる本家の住まいである。地域の地場産である「山武杉」をとことん活用し、堂々とした家構えを在来工法

による切妻の大屋根で表現した木の家である。建築家は、この恵まれた与条件の中でも自らの信念と手法を貫き、主体構造から家具にいたるまで、地域の木のぬくもりに包まれたおだやかで次代に引き継がれる住まいを作った。そして、薪をバイオマスの資源として活用し、エアコンを必要としない環境共生型の居住環境を実現したのである。

このように、建築家の思いと戦略が詰まった住宅作品だが、なによりも住み手の穏やかで誇らしげな表情の中に、この家の持つ意味が凝縮されていた。このような活動の今後の展開を支援する意味からも、奨励賞が授与された（岩村和夫）。



南側外観



座敷

(撮影/ABE写真工房)